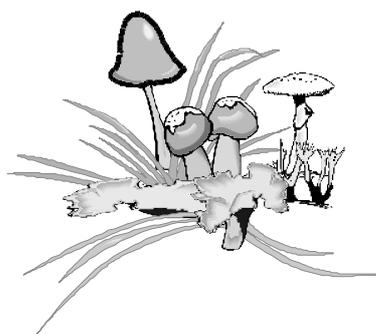


# ドナウ通信

No. 57

## 目次

特集 - 立ち上げ苦労話			
会社立ち上げ奮闘記	高濱 吉廣		2
新米社員奮闘記	加藤 友子		7
会社紹介			
Furukawa Electric Institute of Technology (FETI) Kft.	橋詰 直樹		9
随 想			
ボールトウーラ	宮岡 一夫		10
お魚を食べようか、お肉を食べようかー？	ルーリントツ 美智代		12
マジヤールの小さな幸せ時間	田村 敏展		15
報 告			
日本人学校の設立準備状況	日本人学校設立準備委員会		17
補習校児童・生徒作文			18
テクノロジーへの期待 - こんなものが発明されたら			
高等部 2年 岩田 優子			19
3年 本 亜由美			20
うんの さつき / おおはら さきこ / ぬま田 なお子 / 上原 大輝			
堀部 和加奈 / 戸田 大貴 / 村松 佳奈 / 高橋真帆			
書籍紹介			
I・スチュアート『二次元より平らな世界：ヴィッキー・ライン嬢の幾何学世界遍歴』			25
日本人会からのお知らせ			28



## 特集 立ち上げ苦労話

### 会社立上げ奮闘記

高濱 吉廣

中欧三方国ハンガリー・チェコ・ポーランドを約三週間かけて基礎調査のあと、候補先をハンガリーとチェコに絞り込み、この二カ国を更に二週間ずつ詳細調査、その調査結果を元にハンガリーのサーズハロンバツタ（以後バツタ）への進出が会社として最終決定された。二〇〇一年一二月のことである。

年の瀬を挟んで土地購入の具体化交渉。その後、年明け早々の二〇〇二年一月からバツタへの会社設立・事業具体化推進の大役を担って当地に赴任、伊藤忠さんの事務所を間借

りしてプロジェクト(PJ)活動を開始した。このとき本社では二〇〇三年三月を「Job#1」としてハンガリーで生産する製品開発が進行しており、一年三ヶ月後には量産を控える「待ったなし」の企業立上げ活動に突入した。

大項目としての仕事は以下のもので、元々技術畑しかかじった事の無い小生にとっては全くの新分野であり、やりがいを感じると同時に本音のところ戸惑いも大きかった。

本社に応援部隊は控えていたものに限られた領域とスタッフであり、旗振りの全責任と同時に実務推進の両輪を負うことになった。

- ・ 土地購入
- ・ 会社登記・資本金振込み
- ・ 工場建設進捗
- ・ インセンティブ申請
- ・ CFZ 申請
- ・ 従業員のリクルートと採用
- ・ 操業許可取得と会社運営体制構築

#### ・ 節税対策の構築 (MSA)

PJ活動はコンサルタント契約を結んだ伊藤忠さんから適切かつタイムリーなアドバイスを受けながらほぼ順調に進捗。仕事そのものは日々新しいことの連続であり退屈したりマンネリになることは全く無かった。むしろ日本とハンガリーを往復しながら現場でPJ推進責任者として仕事が出来ることが喜びを感じ面白く楽しくやることが出来た。問借りした事務所とホテルが歩いて五分の距離で足の便が良かったことも日々の仕事を進めるうえで妙に心地よかった。

しかしこれでは奮闘記にならない。以下PJ展開上経験した問題点や悩まされた事例を「前編…会社設立と立上げ準備」と「後編…会社立上げから運営へ」の二部に分けて紹介したい。個々の問題にどのように奮闘したかの対策までは書ききれないし、後編で紹介する問題の中には未だに

解決できずに問題が尾を引いているものもある。会社立上げの過程でこの国ではこういうことが起こりうるという一つの事例紹介である。これら事例には問題の大小はあるが何らかの奮闘を強いられたという位置付けにして奮闘記としたい。



## 前編…会社設立と立上げ準備

### △事例1▽

前述した個々の項目を進める上で、以下に示す活動についてタイミング上の相関関係がきちんと理解できず成り行きで進んだ。すなわち全体の日程計画がよく見えずPJの全体日程がうまく描けなかった。その結果本社へも適切な全体計画が示せず旗振りとしては失格ではないかという歯がゆい思いをした。

・ 土地購入と会社登記はどっちが先？

・ 建築申請と土地契約はどっちが先？

またCFZの申請・取得について、IPRという輸入特典スキームとの比較でどちらが有利かで迷うことになった。CFZ工場は部品や設備の輸入税が免除される一方、輸出入業務に特別の管理が必要でありその管理コストも結構高つくことが事前調査で分っていた。ただ当社の事業内容

に対してCFZとIPR相互の具体的なコスト分析・比較がいつまでも明確に描けなかった。しかしこれを決めねば工場の仕様が決まらない、着工できないなど全体日程上のインパクトも大きく、決めかねていた自分にプレッシャーがかかり続けた。

CFZで行くことは決定したものの、未だどちらが正解だったのか明快な納得は得ていない。

### △事例2▽

政府当局への諸申請上、準備書類の種類がやたらに多くまた全体像もよく掴めなかった。準備・申請にかかるコンサルタント料・銀行保証などのコストも馬鹿にならなかった。更に書類の中にはその目的・狙いが不明で書類作成の留意ポイントがよく分らないまま提出が必要だから準備するというものも多々あった。こういうのは誰にとっても有りがたくない仕事であろう。当局への申請で

はこの国がかつて社会主義国であった名残をいつも感じさせられた。殊にインセンティブ申請では時間と相当の費用も掛かったが、結果的に認可されず日の目を見なかった。インセンティブの特典があるということハンガリー進出の決定要素の一つであったのである。

### △事例3▽

ハンガリーに一人駐在しての活動であり、PJを進める自分のすぐそばに真の片腕・支援者がいなかった。コンサルタントとしての伊藤忠さんが貴重な相談相手であり支援者であったことは事実だが、大所に対してのコンサルが中心であり実務レベルでの些細なところまでの質問は自分の能力の無さを露呈する様で口にしにくかった。一方本社は当然の事ながら全てを現地駐在員に任せきっており本社への問題投げかけは非現実的だった。まさに孤軍奮闘、一人で

考え込むという状況にも幾度か遭遇した。しかしこれは驚沢な部類の悩みであったことを付け加えておきたい。

### 後編：会社立上げから運営へ

ともあれ準備段階まではむしろ順風満帆と言えた。真の問題・奮闘はその後起ってきた。

人事総務を担当する管理Mgrを二〇〇二年八月に採用。ハンガリーでのPJ推進が一人体制から二人体制に、そして工場統括の要である製造Mgrをその二カ月後の一〇月に採用し、徐々にではあるが推進体制が整っていった。しかし当社のPJは売上計画から判断しても小規模なもので、無駄を省いた最小組織での運営がマストであり人件費などのコストも抑える必要があった。そんな背景の中で数々の問題に遭遇することになった。

### △事例4▽

最終客先であるFOROでの量産遅れを受けて当社の量産開始も遅れた。雇用した従業員は設備トライの後中々本格生産に入らず、毎日掃除やペンキ塗りといった日々が続いた。現場従業員の間に「会社の操業はいつになるのか、会社は存続するのか」という不安が頭によぎったのか、会社の将来像を示せと団交が勃発した。量産遅れについては理由を説明、加えて二直生産計画やそのための従業員を追加して雇用する計画があることを説明し納得してもらった。社内の末端まで将来計画を示し情報を共有化することの重要性を学ばせてもらった。



#### △事例5v

担当Mgtが当方の承認なしで勝手に物事を進める独断突っ走りが頻発、『誰が承認した』、『勝手に会社のお金を使うな』と、声を荒げなければならぬ事も幾度か起った。その都度、ハンガリーと日本は習慣が違う」とか、「これくらいのスモールマネーは前の会社では自分の判断でやらせてくれた」といったような言い訳ばかりが先行し、間違ったことをしたという反省は全く聞かれなかった。この事例がハンガリー人全てを代表しているとは思わないが、Mgtクラスではこういうタイプは少なくないのではないか。ハンガリー人は素直で扱い易いという前評判は必ずしも正しくないという印象を持たざるを得なくなった。これはその個人の性格や過去の習慣に起因する固有の問題なのかもしれないが、「この国への投資決定は正しかったのか」という思いが一瞬よぎったのも事実である。

る。

#### △事例6v

管理Mgt・製造Mgtへの負荷が膨らみ所定の休暇が取れないとの不満が噴出。結局製造Mgtが脱落し七月に会社を退職した。二直体制への移行準備にかかった矢先であり超多忙な時期に急遽後釜のリクルートが必要になった。

「新会社立上げという忙しさに加え、小さい組織の会社ゆえに製造Mgt」という枠を超えて多くのことを担当せねばならない」と面接の際に説明し、本人も「ニューチャレンジ」と格好良く応答したのは一体何だったのか？ しかも当人は日本へ研修にも行かせていた。にもかかわらず会社へ何のロイヤリティーも示すことなく辞めてしまったのである。人の選択の難しさとこの国が契約社会であることを良く良く学ばせてもらった出来事であった。そしてその一ヶ月後には当社にと

つてもう一人の要である管理Mgtが他社からのヘッドハントをバックに待遇改善を求めてきた。二人しかいないハンガリー人Mgtに立て続けに辞められてしまったのでは一般従業員への波紋・動揺が甚大である。その前に会社の業務が回らなくなってしまう。管理Mgtの言い分を聞き留まってもらったが、その付けは大きかった。

#### △事例7v

現場従業員より給与改善問題が勃発した。他社の給与実態をかざしこの給与では生活できぬ、上げてくれねば他社へ移るといっているのである。一人二人なら「ハイどうぞ」と言えたのだが、七、八人の集団で来られ、しかも一度ならず二度である。

頼りの管理Mgtは会社の立場に立った考えを従業員に説明して理解を求めるといった行動は一切取ろうとせず、ひたすらにワーカー寄りの対

策を我々幹部に求めてきた。小生はここでも四面楚歌、正に孤軍奮闘させられることになった。

#### △事例8▽

小さな組織が前提の当社では、経理・購買・生管・品証などの採用計画は無く、会社としての組織体制が十分な環境下で会社の運営スタートを余儀なくされたが、その大半のしわ寄せが日本人出向者に掛かってきた。その最たるものは、昼夜勤二シフト生産開始後の工場管理体制である。

日本人は早朝から深夜まで会社に留まり生産をウオッチしなければならぬ状況に陥った。またISO品質認証取得活動はコンサルタント会社におんぶに抱っこで開始したものの途中で頓挫、再開まで結局二ヶ月以上のブランクが開いてしまった。ハンガリー人自身が工場を運営し、日本人はその運営を管理する体制を早

く構築したいと考えているがその実現にはまだまだ時間がかかりそうである。

以上が会社立上げに伴い経験してきた代表的な問題である。他に製品品質に関わる問題も発生、綱渡りでの生産を凌ぐという苦い経験をさせてもらったがここでは割愛した。これは事の大小、ポイントの多少の違い・ズレはあれ、ハンガリーに進出した会社ではどこでも起り得るこの国共通の問題とも聞いており、決して当社固有のものではないようである。

ともあれこの九月三日には一大イベントである開所式を開催、多くの関係者を招き世間に当社がバツタに生産拠点を構築し生産の緒についたことを披露した。まだまだ解決すべき問題を山積した会社ではあるが、この会社を他社や世間から羨望の目で見られる会社に成長させたいという夢を描き日々の生産・運営に当っ

ている。一步一步ステップアップする過程を楽しみながら会社のスタッフ、従業員と共にその夢に向かって進んでいきたいと考えている。



## 新米社員奮闘記

加藤 友子

私は半年前にハンガリーに働きにやって来た。幸運にも大学で勉強したハンガリー語を生かせる職場で働く機会を与えてもらった。私は本当にラッキーな人間である。

私の会社での役割は通訳、およびその他雑務、いわゆる何でも屋である。ある時は購買に、ある時は品質管理、生産にと首を突っ込み毎日楽しんでいいる。新米通訳の奮闘振りをご紹介しますと思う。

私がハンガリーに来たのは真冬の二月のことだった。飛行機に乗るときに「もう後戻りできない」とどきどきしたことを今でもよく覚えていいる。そしてブダペストの空港に降り立ったときには「来てしもた」と複雑な心境になったことも事実である。その日の夜は不安でたまらず、少しでもその不安をまぎらわすために辞

書を引きまくった。

私のハンガリーでの初仕事は不良対策についての教育を通訳することだった。私にとってなじみのない単語がずらずらと出てくる。初めて口にする単語だから噛みまくる、途中で思考回路がストツプする、で初仕事は散々たるものだった。きつと出席者も何度も頭をかしげたことだろう。ハンガリーに来て最初の仕事だから、と少しは言い訳もできたのだが、二度目からうまくいったかというとなんともなく、悶々とした時期はしばらく続いた。私のつたない通訳よりも英語のほうがコミュニケーションはスムーズにいつていると何度も痛感したし、自分のあまりの情けなさを悔しく思ったことも何度もある。

毎週月曜日の全員が集合する朝礼は一週間のなかで最も緊張する数分だった。社長、工場長の言葉を整理してこちらをじっと見ているハンガ

リー人に伝える、笑ってごまかすこともわざわざ単語を探しに行くことできない。当初感じたのは私の発する言葉の中に間違いがたくさんあるはずなのに、みなさん黙って聞いている、ということである。間違いを指摘してもらえないとこれまた不安でたまらなくなるのである。私としてはいつそのこと思い切り飛ばしてしまらったほうが気は楽になる。静まり返った空間での通訳はたまらなく緊張する。

いつも心拍数を上げながら通訳をしていたわけだが、あるときのミーティングでちよつとした出来事があった。ずっと「叱る」の意味だと信じていた単語が、実は「痛い目にあわせる」の意味のスラングであることを知らずに使い大笑いされたのである。緊張した空気の中で大笑いされたのは恥ずかしくもあつたけれど、何かが吹っ切れたようにも感じられた。なぜならそれまで私は間違えて

も誰からも指摘されず、みんなあとになつてきつと笑つているんだと考へていたからである。自分の知らないところで笑いものになるのはごめんだ、ということでもいつも体裁ばかりを気にしていた。しかしこのときは思い切り笑い飛ばされたことで、あまりにもおかしな発言をすればそれなりのリアクションが返つてくると分かつた瞬間であつたし、それまで誰にも笑われなかつたのはまだ許せる範囲の間違ひだつたのだと自分を慰める丁度いい機会になつた。

通訳はしゃべつてなんぼのものである。黙つていたのでは仕事にならない。このときから聞こえがよくなつても変でもいいから何か発しようとして体裁を気にしないように試み始めた。間違へてもギャグにしてしまへるならもうけたものだ。通訳としての言語能力不足がそれほど私を苦しめなくなつてきた。これで一つ目のハードルを越えることができた。

人間同士のコミュニケーションは言語だけで成り立つものでは決してない。全てのコミュニケーションの要素を一〇〇とすると言語が補うのは三〇ぐらいだろう。表情・身振り手振りでも充分表現できるし、話の背景を知つていないのと知らないのでも理解度がずいぶん違つてくる。この話の背景を知らない、というのが今の私にとって最もイタイところである。例えば日本からの技術支援者とハンガリー人の間に素人の私が立つたとする。そうすると技術の分からない私には日本語から日本語への通訳も必要となるわけで、かなりご迷惑をお掛けすることになる。こんなときは通訳など排除してもかまひの部分、お互いを理解することができる。毎日のようにこんなことが続いている。なんとか自分の付加価値を見出すための葛藤が今度は始まつた。二つ目のハードルである。このハードルを越えるのはかなりの長

期戦になりそうだ。

毎日様々に異なるテーマを通訳するわけだが、私の頭は残念ながら自分が通訳した内容を保存しておけるほどお利口ではなかつた。いつも片足だけ突っ込んですぐに引き抜く、この繰り返しをしてきたものだからせつかくの情報も右から左にすり抜けて行つていた。継続が苦手で、なんでも目立つこと、かつこいいことをやりたがる私の性格のせいではない。落ち着かず社内ですらふらふらしている状態である。半年が経過してやつとやりたいことをリストアップすることができたが、(とはいつてもそれがかなり欲張りなのだ)まだまだ時間はかかるだろうがこれから自分のスペシャルの部分に付けるべく今後も寄り道をしながらの模索が続いていくことだろう。これから半年後が私の社会人としてのおよその方向を定める時期だと思つている。勝負だ。

## 会社紹介

Furukawa Electric Institute of  
Technology(FETI) Kft.

橋詰 直樹

皆さんは古河電工という会社をご存じでしょうか？サッカーがお好きな方でしたら、ユニジェフ市原の前身ということで記憶されているかもしれません。実際日本サッカー協会の会長(川淵さん)、副会長、前の会長、「岡ちゃん」こと岡田元日本代表監督など、日本サッカー界の有力者は古河電工出身が多いです。実のところ古河電工は業種で言うと「非鉄金属」という分類になりますが、一言で説明するのはなかなか難しいです。古くは日光足尾銅山の銅精錬から始まり、送電線、電話線等の伸銅製品を基軸としながらも、アルミニウム、プラスチック材料、光ファイバ、半

導体レーザー、通信モデム、形状記憶合金、自動車部品など、幅広い分野に事業を拡大して来ております。特に光ファイバは世界第二位、携帯電話のアンテナ(形状記憶合金)では世界で80%のシェアを誇ります。

FETI Kft.は古河電工の在欧州研究所のような位置付けになります。ソ連邦崩壊後の体制変換の際に、国立電力研究所の高電圧ガイシ研究部を買い取る形で一九九一年に設立されました。ガイシと言ってもピンと来る方は少ないと思いますが、今度郊外までドライブなさる際に、頭上を通る送電線をちよつと注意して見えてみて下さい。送電線と鉄塔の間に、切り分ける前のバームクーヘンにも似た長い棒がひっかけてあるのがわかると思います。ガイシは送電線同士あるいは送電線と鉄塔がショートして高電圧の電流(大変危険です!)が流れないように、何十年にも渡って電気を遮断する役目を担う働き者な

のです。ガイシは通常は磁器で作られるのですが、そう、磁器と言えば皆さんよくご存じのジルコンも実はガイシの製造を行っており、ここには元ジルコンで働いていた技術部長さんもいます。

実はFETIが設立当初から開発してきたのは磁器の代わりにシリコンゴムを用いた軽量かつ割れにくいガイシで、残念ながら絢爛なハンガリー磁器とはほとんど無縁の世界です。さて、古河電工本体の主要業務が電力事業から「E」や自動車といったハイテクの世界にシフトしつつあり、「E」でもガイシやゴム整形の研究は主流を退き、現在は計算機シミュレーションの仕事が多くなっています。駐在する日本人は現在私一人です。お昼時にアジアセンター(会社から車で五分程です)のベトナムピュッフェで一人淋しく麵をすすっている日本人を見かけたらそれは多分私です。気軽に声をかけて下さい。

## 随想

### ボールトゥーラ

宮岡 一夫

Bot (ボール) がハンガリー語でワインということをご存知の方は多いかと思いますが、トゥーラとはツアー (旅行、遠足) の事で、ボールトゥーラとは要するにワインツアー、ワイナリー巡りのことです。

小生日本では、夏はビール、冬は日本酒。ワインは出されれば飲むものの自分から注文することはまずなく、時に居酒屋でワインを注文する人と同席すると、格好をつけてとか、何とかフェノールが健康によいから飲む??? という様な、典型的オヤジの反応を示していました。そんな小生は二年前の夏に赴任したのですが、その秋に、会社の同僚

(ハンガリー人) より、ボールトゥーラに行かないかと誘われました。さほど好きでもないワインを飲むためにわざわざ遠くに行くのも億劫、言葉もしゃべれないのに、ハンガリー人の中に入って二日を過ごすのも

シンドイと躊躇したのですが、特にすることも無い週末、たまには田舎に出かけるのも悪くないかと、あまり気乗りがせぬままでかけました。

行き先は、南西部のクロアチアの国境付近の Villany。赤ワインの名産地でブダペストからは車で二時間半です。

Villany に到着したときの第一印象はただの田舎の村で、ただ、通りのそこそこに居酒屋風の店とかペンションがあるなどというものでした。ペンションにチェックインし、その晩 Villany の村はずれにある、ブンデルリッヒというワインセラー (Pince) にでかけたのですが、そこで待っていたのが、ワインテイス

ティングとワイン飲放題の大宴会です。

ワインテイスティングは、地下のワイン熟成蔵で、樽からいろいろな種類のワインを試飲させてくれます。ケークオポルト、ケークフランコシユ、カベルネソーベニヨン等々ブドウの種類により、また、一九九九年、二〇〇〇年等、年による出来不出来により、如何にワインの味の違いが出るかということを説明してくれるのですが、次から次へと出てくると、どのワインも一緒に違いが分からなくなってしまう。また、一〇種類は飲ませてくれるので、全部まともに付き合っているとこれだけで酔っ払ってしまいます。

従って、よほど好みと思ったワイン以外は、勿体ないのですが、一口味わったら捨てることになりました。宴会は、ハンガリーの田舎料理を食べながらワインを飲み続けるもので、お決まりのバイオリン、アコー

デオンのバンドが入り、何時しか合唱大会が始まり、その辺では踊りも始まるということになり、そのうち日付の変更も近くなってきました。

最初はいくらか英語を話し、氣を使ってくれていた同僚たちも、そのうち完全にハンガリー語の世界に入り、何を話しているのか、何を歌っているのかも分からなくなっているのですが、当方もテイステイングから始まり、宴会をへると、かなりの量を飲みますので、何語でしゃべると殆ど関係なしです。ペンションに戻る頃は大分酩酊状態になり、翌日がシンドイカナといったことが頭をよぎる瞬間もあるのですが、不思議と二日酔いにはなりません。某先輩によると、樽ものとか、自家使用のワインには防腐剤を入れていないので悪酔いをしないのだとの事でしたが、なるほどと思いました。

翌朝は、Pince 直営のワインショップに出かけ、氣に入ったワインの

購入です。せいぜい三年前くらいまでのものしか置いてませんが、同僚たちは何ダースかまとめ買いします。何年か自宅で寝かせておき、熟成を待つのだそうです。価格は、ブダペストで買うより二割くらいはやすい様です。

最初はあまり乗り気ではなかったポールトゥーラも、田舎の新鮮な空気の中、テイステイングをし、楽しい宴会の雰囲気になるとなかなかよいではないかと思う様になり、ワインの味の違いは相変わらず分からないままですが、それ以来、毎年二回、春、秋に Villany に通っています。また、当地のワインのことかじったりすると、Villany にあった Pince 兼ペンションがハンガリー有数のブランドワインの Gere とか、Bock とかがやっている店だったりしますので、田舎の村でも侮れず再認識したりしました。

ポールトゥーラはハンガリー人の

間で人気が高まってきているらしく、Villany に限らず、Tokaj の近辺とか何箇所か行き先がある様です。英語がなかなか通じにくいので、最初はハンガリー人のアシストが必要かと思いますが、何処のペンションに泊まっても小奇麗で、また、ワインを飲んで、宴会をするだけの事ですので、片言のハンガリー語が出来れば、何とかかなります。また、料金も、きわめてリーズナブルです。

ということ、ワインの好きな方はもちろん、そうでない方も機会を見つけてポールトゥーラを試されてはどうでしょう。

最後に、レストランのワインリストをご覧になり、一言コメントされる際、ワイン通らしく見える雑知識を披露します。

#### Villany ワインの有名ブランド:

Gere, Bock, Polgar, Molnar, Teleki

ワインの分類：

ブドウの種類以外に以下があります。

**Barrique:** 樽で寝かせる期間が長いもので、より風味が出るといわれており、値段も高めです。

**Cuvee:** 何種類かのブドウを混ぜたもので、Pince のワインの味に対する考え方がよくでるのだそうです。ために、「やはり赤は Villanny, Cere の Barrique なら間違いない」といつてみてください、同席者に一目置かれるかも知れません。但し、小生は、ボ口が出ない様にそれ以上話題が進まない様細心の注意を払っています。

それではエゲシエグンクレ（乾杯）！！！！



お魚を食べようか

お肉を食べようか？

どうやらどちらもいいらしい

ルーリントツ 美智代

私達夫婦はお魚好きです。

日本人の私はともかくとして、身体のサイズや容姿のどれをとつても決してそう見えるはずがないのに、「あなたのお父さん？」（なぜなのでしょう！）と尋ねられることのある主人は、「毎日の食卓には炊きたてのご飯とお味噌汁、そしてお魚があつて欲しい」と言い切るハンガリー人なのでした。

某高級日本レストランでは、席についた途端に「鮭の塩焼きですね？」と、お店の人に確認されるのが常なものでしたが、最近では【バッテラ×鯖】という変遷もみられ、「光り物」も勿論大丈夫。

「お魚を捌くところからはじめ、適切に調理し、美味しく頂きたい」

が為に、調理師の資格まで取得した彼の趣味は：：言うまでもなく釣りでです。

そして妻である私はというと、郵便局で窓口に辿り着くまでの行列に並んでいて、すぐ後ろにいる年配のご婦人に髪を撫で撫でされながら、「こんなに艶々で長い秘訣は何なのかしら？」と、大袈裟な身振りで尋ねられたり、果物屋で一心不乱「季節の甘くて果汁たっぷりのもの」を物色している最中に、お店のご主人にやおら髪の毛を掴まれ、「やけに多くて真つすぐだからカツラかと思つたら自前かあ、いいビタミン剤でも飲んでるのかい？」と、セクハラまがいの冗談を放たれる度に、「お魚を食べているからです！」と、きっぱりと答えるのでありました。

これはあながち出鱈目ではなく、就寝に近い（つまり夕食）時間のお魚から摂取する蛋白質には、お肌や髪の毛を美しくするはたらきがある

のですよ、皆さん。

ところで是ほどお魚を好んでいる私達なのですが、決してお肉が嫌いという訳ではないのです。ただ感覚的に、「頻繁にお肉を食べるよりはお魚を食べたほうが健康的なのではないか？」ズバリとした根拠もなく、ただこう考えていたまでの事なのですから。

それがあつた日、なんの気なしにページを繰っていた『サンデー毎日』という日本語雑誌のある記事に文字通り目を奪われ、私達夫婦の価値観における、「いつきにお肉の地位が浮上りましたよ」という改革が遂げられたのであります。

それではおもむろにその記事をご紹介しましょう。

「日本人の脳は栄養失調になつてゐる。肉と砂糖をもつと摂らないといけない」こう主張するのは、浜松医大名誉教授の高田明和氏（脳生理学）である。

厚生労働省をはじめ、世を挙げて肥満や脳卒中・糖尿病など、生活習慣病防止に躍起になつてゐるご時世にいささか大胆な主張だが、その理由は《脳のメカニズム》にある。

高田氏の説明によると、現代医学に於いて鬱病の薬として最もよく用いられてゐるのは、脳内の神経伝達物質のひとつであるセロトニンを増やす薬だという。「鬱病の大きな原因は、セロトニンの放出量が少ないためだ」とされてゐるからだ。

そのセロトニンは、食べ物に含まれるトリプトファンというアミノ酸から脳内で作られる。トリプトファンは必須アミノ酸といつて、私達の体内でつくることができず、食べ物から摂るしかないのだ。つまり、鬱病にならないようにセロトニンを確保するには、食事等に気を配る必要があるといえよう。

そして、「トリプトファンが最も多く含まれてゐる食材が肉」である。

要するに、鬱病にならないようにするには、肉を食べなければならぬのだ。

さらに、肉から摂つたトリプトファンが脳内にスムーズに吸収される為には、ブドウ糖が必要なのだ。肉だけ食べてもブドウ糖がなければ、セロトニンをつくる「材料」が「製造工場」の脳には運ばれないという。

トリプトファンは肉以外の大豆などの野菜にも含まれてゐるが、肉から摂るのが圧倒的に効率が良いという。高田氏が「肉と砂糖を食べなければならぬ」というのはこういう理由からなのだ。

「しばらく前から《粗食の時代》とされ、肉や砂糖を食べることが悪いように言われてきてゐるが、社会は変容してゐる。社会が右肩上がりだつた高度成長期などは希望があり、粗食でも耐えられたらうが、コンピュータ化が進んだり、老後や雇用に不安を抱えるストレス社会の現状

では、脳は粗食に耐えられない。動脈硬化さえなければ心がいかに傷ついてもよいということはない。行きすぎたダイエットで粗食や過食になつて心のバランスを崩してしまうのも、脳が栄養不足になるからだ」高田氏はこう説明する。

それではどのような肉が良いのか？ 肉は牛でも豚でも鳥でもよく、部位としては鳥肉ならささ身、牛肉ならフィレなど脂肪の少ない、赤身で硬いところがよい。魚でもマグロならトロではなく赤身、またカツオでもよい。調理法は焼いても煮ても構わず、硬い牛スジは軟らかく煮て食べればよいという。

もちろん食後のデザートで、ケーキやチョコレートなどの甘いものを食べることを欠かしてはならない。「欧米諸国が食後にデザートを食べるのは、脳機能を考えれば理にかなっている。また、和食であれば食後に和菓子を食べればよい。お菓子が

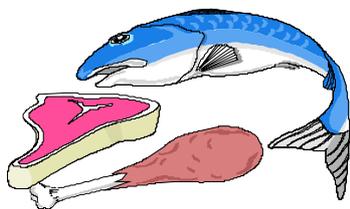
ダメだったり、バターやチーズなどのカロリーが心配な方は、コーヒーや紅茶に砂糖を多めに入れて飲むようにする。それでもどうしてもカロリーが気になる方は、食べるご飯の量をちよつと減らすとか工夫していただきたい。同時に、太陽の下に出て運動をすることも大事です。「光の刺激や運動で血液の循環をよくすることも、脳がセロトニンをつくるのを助けます。」高田氏は食べ方をこうアドバイスしている。

精神医学的なアプローチによって鬱病から身を守るのがすべてではなく、食事療法によつて脳自体を強くすることで鬱病を防ぐことができるのである。「当たり前という言葉が並んでいるが、声にして読んでみると感じるものがあると思う。他人からどうみえるかではなく、自分の心に価値判断の基準を持つて欲しい」

「死にたくなつたらまずこれを食べよう」などというサブタイトルま

でついでおり、単純な私達に多大な影響を及ぼしたものでしたが、賢明な皆さんにとつても、情報はたくさん流入してきたほうがよろしいのではないでしようか。

今回勧めてくださる方があつて寄稿しましたが、ここハンガリーで生活なさつていられる間にも、皆さんに「食事を意義あるものとして楽しんで頂けたら・・・」という願いを込めまして、私の拙文も結びであります。



## マジヤールの小さな幸せ時間

田村 敏展

空は透き通るように高くなっていた。日差しもまだ強い。然し、風の微粒子が心もち紅を含んでいるかのように瞳に映る。道に沿って立つポプラの木々はそよ風にサラサラとなびき、まるで波間に輝く鱗の鱗のようである。もう初秋である。

車はゆっくりと所々下地の赤茶色が目に付く、古ぼけた大きな緑色の門の前で止まった。

『Mama... Mama...』 彼女は周りを気にする事もせず、まるで夕刻にお腹をすかせた子供が学校から帰って来た時のように叫んだ。

大きな門がゆっくりと軋みながら開くと屈託のない大きな笑顔を浮かべた小さなお婆ちゃんが胸に飛び込んできた。行き着いたのは彼女の祖母の家である。

大きな門をくぐれば、直ぐに毀れ

日のアーチが待っている。ほのかな甘い薫りが周囲を包む。アーチの中は少し早い時期もあつてか、小粒な葡萄がたわわに実っている。

祖母は玄関を入れて直ぐ側の小さな椅子に私達を腰掛けさせ、彼女は話を始めた。

とても陽気でおしゃべり好きな祖母である。

玄関外には小さく細長い軒が有り三本の木の柱で支えられている。柱はいい具合にくたびれていて黄色い花を咲かせた弦が巻いている。玄関先の祖母の指定席には黒猫が細い目をして座っている。戸は開けっ放し、ピンクや水色やオレンジ・・・昔はハイカラで綺麗だったのだろうなと分かる日焼けをしてしまった長いすだれが今日はドア代わり。

座っている私からは一部木目が見え出し、き出しになっている白い窓越しに、そんなに広くない庭が見える。窓は一枚ガラスの上下二枚式、下の窓は

手前に倒れるように開けてある。庭には小さいが良く耕された畑があり、パプリカや大きな黒紫の茄子が収穫を待っている。二方を土壁が、一方は低い倉が庭を囲む。土壁の角には一本の桃の木があり、枝が祖母にも実を取りやすい様にと気使うが如くゆっくりお辞儀をし始めている。

部屋の中は電灯をつけていないのでほんのりと薄暗い。然し、外から差し込む日差しのカーテンが時の流を分からせる明るさにくれてくれる。壁にはたくさんの絵皿が飾られ、陰達が皆、歴史を静寂の中に閉じ込めている。木作りのドイツ風食器棚にはお気に入りで見えるティーカップが仲良く並び、自分達が話題にするのを待っている。とても古い家だが造りがシンプルである。

休日の午後の時間を連れて来たかのように黒猫が眠たそうな顔で入ってきた。

私の耳に蒸気の激しく沸き立つ音

が飛び込んでできると同時に香ばしい時間が訪れた。

祖母の煎れてくれるコーヒーはどこか人懐っこく優しい。

そんな時間に抱かれ、彼女達が夢中になるのはご近所の話。多分、今も昔も変わらないだろうが村の噂はインターネットより速い。さらに映画よりドラマティック。私は話題の半分も分らない。彼女達の表情から受け取れるもの。それはそれは『三時のあなた』を想沸とさせるものがある。

ひと段落すると祖母は私達を彼女だけの秘密の花園へと誘う。

小さな細い三本歯の桑やスコップ、手袋に木製の酌がよく使いこなされた小柄な木樽に入れて置かれてある。手入れが善くゆきとどいているのだろう、むだな草は無く、小さくこんもりとした幾筋もの畝が眼に留まる。訪れた頃は薔薇がとても美しく咲き乱れようとする初句。祖母は薔薇段

の中に入ると目を細めゆつくりと微笑んだ。聖母マリアのような何処までも優しい眼差しで一つ一つ薔薇を手のひらの中に包み込むと小型の釜で起用に摘んでゆく、そして私達にプレゼントしてくれた。祖母が言うには、『今とてもいい子が咲き始めたの。だから持って行って』。

彼女の手の中に束ねられた薔薇達は優美な王朝の薫りをほのかに讃え、微笑を浮かべていた。

祖母のおちやめなところは、善い花を育てるために、育ちの良い物や物を摘む作業や害虫を処理する話をし始めると、方法や切りつづすところを小さな体いっぱい使って表現をした。その時の彼女の目はやんちゃ娘（じゃじゃ馬）そのままである。祖母の家を後にする時、頬にキスをする。私が見た祖母の手は傷だらけなのである。

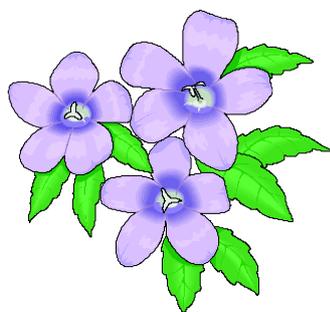
今、彼女はひとり暮らしをしていて。祖母の強さと優しさを見たと思

った。

彼女の手はとてもやわらかであった、そして美しかった。

私が手に持った彼女の薔薇よりも。

月に一度、祖母と午後のひと時を過ごすことが私の大切な休暇。



## 日本人学校の設立準備状況

### 日本人学校設立準備委員会

前回のドナウ通信(No.56夏季号)では、補習校運営委員会より、日本語による教育を今後も安定的に続けていくためには、主に財政上の理由から、日本人学校の設立が必要であると述べさせて戴きました。その後、校舎探しと費用負担方法についての検討を進め、七月度の商工会例会にて出席者全員の賛成の下、全日制日本人学校設立準備委員会の発足が承認されました。今後は、日本人学校設立準備委員会より、活動状況及び日本人学校設立の見通しについて、定期的に報告させて戴きたいと思いません。

### 1. 設立準備委員会の現在までの活動状況

七月一九日に第一回会合を開き、自身の設立検討委員会(補習校運営委員が兼務)からの引継ぎを行いました。同時に、各委員がいくつかの作業部会に分かれ、詳細の検討や交渉等の具体的な作業については、作業部会単位で進めることが確認されました。現在一六名の設立準備委員に四名のアドバイザーを加え、月二回のペースで全体会合を行うとともに、各作業部会にて個別に作業を進めております。

#### 【校舎の選定】

第一回会合では、校舎の選定も行いました。七月度の商工会例会では、校舎の候補として、  
ブダペスト工科大学付属英語高校  
の校舎の一部を借用  
ヴイラニヨシユ小学校の別館と、  
本館の一部を借用(本館の場合は共

同使用)

アメリカン・スクールのブダ校舎  
買取り

の三つが提示されていましたが、全日制日本人学校の校舎として、文部科学省に求められる要件、所在地・交通の便、改築あるいは買取りに要する費用、使用開始可能時期などを総合的に検討した結果、全員一致で、  
ヴイラニヨシユ小学校が最も適当であるとの結論に達し、この前提で検討を進めることになりました。

#### 【設立要望書の提出】

第二回会合では、外務省及び文部科学省に提出する全日制日本人学校の設立要望書(設立趣意書、設立計画書及び学校定款の原案を含む)の内容について検討を加え、七月末には伊藤日本人会会長から松本大使に設立要望書及び設立趣意書を提出しました。設立計画書及び定款(原案)も七月末から八月月上旬にかけて、大

使館経由で外務省及び文部科学省に提出しました。

## 2. 全日制日本人学校の開校時期

設立要望書の提出に当たっては、当初の開校目標（二 五年四月）を半年早めて、開校目標を二 四年九月（設立目標は二 四年四月）としました。これは、ハンガリーの新学期（九月）に合せた方が、ヴィラニョシュ小学校の校舎を賃借する上で都合が良いことと、近年、開校準備のための教員の派遣が廃止され、開校と同時に教員が派遣されることになったため、少しでも早く開校した方が、準備が進めやすいためです（以前は開校の一年前に文部科学省から開校準備のための教員が派遣されていましたが、現在は開校前の教員派遣は行われておりません）。

これに対し、日本側からの正式な回答はないものの、二 四年九月の開校については、日本の会計年度

が四～三月であることから、文部科学省が難色を示しており、実現可能性は極めて低い状況です。当初の目標である二 五年四月の開校についても、現在、中国を始め、世界各地で日本人学校設立の要望がある一方、行財政改革の一環で各省庁の予算は削減傾向にあり、必ずしも確実とは言えませんが、ハンガリーについては、既に補習校への教員派遣打ち切りが決まっていることもあり、文部科学省も前向きな姿勢を示しています。従って今後は、二 五年四月の開校を前提に準備を進めて行きたいと考えております。

## 3. 今後の活動内容

前述のように、日本人学校の校舎として、ヴィラニョシュ小学校の別館と、本館の一部を賃借する方向で検討を進めておりますが、在外教育施設としての文部科学省の基準を満たすためには、別館を改造して教室数

を増やす必要があります。また、本館の一部（体育館、理科室、技術家庭科室など）を賃借するに当たり、ヴィラニョシュ小学校との調整が必要になります。これらのことを考慮に入れながら、現在、各作業部会で、以下の作業を進めております。

ヴィラニョシュ小学校を管轄するブダペスト一二区との交渉（賃借契約の内容検討）

ヴィラニョシュ小学校との、校舎の共同使用あるいは共同授業についての合意

校舎（小学校別館）の改築及び備品についての詳細検討

予算案及び寄付金募集案の作成

補習校の併設の可否についての

検討

進捗状況等につきましては、今後も随時ご報告させていただきます。ご父兄の皆様、日本人会の皆様には、今後もおご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 補習校児童・生徒作文

### テクノロジーへの期待

こんなものが発明されたら

高等部2年 岩田 優子

日本のテクノロジーの発展には目を見張るものがある。今や携帯電話の異常なまでの普及により、どこにいても友達や家族、同僚などと容易に連絡を取ることが可能となった。近ごろではその携帯電話を用いて、写真、更には動画なども撮影、発信可能となった。数年前はポケットベルなどが流行したが、そのころは動画のついたメールなどは想像上のものにすぎなかったであろう。そのような事実を考えると、今現在私の中で想像しているものが、日本のテク

ロジーの発展にもなっており、数年後には実際のものとなり、全国に普及することもおおいにあり得る話ではないだろうか。

テクノロジーの発展によって人々の生活はずいぶん無駄を省いたものになった。例えば携帯電話の普及によって、連絡を取りたい相手がいるときにも公衆電話を探す手間と時間を省くことができる。さらには、携帯電話は常時携帯することによって、家や会社の外においても簡単に連絡をつけることができる。これも、何度もかけ直す手間が省けるし、仕事などもスムーズに進めることができる。無駄を省きたいというのは、日々忙しく生活している全ての人が思うことであり、わたし自身も自分の楽しみの時間を増やすためにできる限り時間、手間を節約したいと思っている。

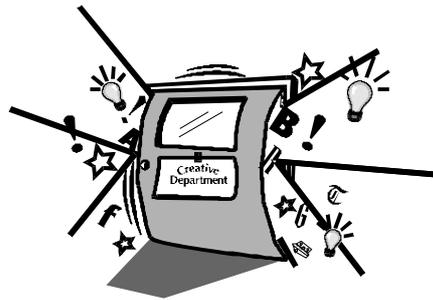
これこそマンガの中の世界のようにだが、実際欲しいと思っている人は数えきれないほどいるはずである。夢のように考えられていたロボットだが、基礎はすでにできあがっているように思える。例えば、工場などでは危険が伴う作業は人間に代わってロボットが行っているし、近年本物の動物を飼えない家庭ではロボットのペットを飼っていたりする。しかしこの程度の決まった動きしかできないロボットでは全く物足りない。なにも、ドラえもんのように泣いたり笑ったりするロボットが欲しいわけではないが、機能としては食事を作ったり、買い物をしたり、部屋の掃除をしたりする高度なロボットが欲しいのである。

このロボットは、ただ単にわたしたちの生活の手間や時間を省くだけでなく、一人では生活しきれないお年寄りや、食事を作ってくれない人、いない子どもなどの家政婦さんのな

役割を果たしてくれるはずである。ロボットの長所は、プログラミングされているための正確さである。朝七時に起こせと頼めば、故障しない限りは寝坊もせずに七時ちょうどに起こしてくれるはずである。料理ではこしよの量もきっちり計って入れるだろう。

しかし、携帯電話を一度持つと二度と手放せなくなるように、ロボットに頼った生活に慣れてしまうとロボット抜きでの生活は考えられなくなるだろう。きつと自分で作れる料理のレパートリーも減り、部屋の掃除さえも面倒に感じることだろう。それはテクノロジーの進化ゆえの人間の退化といえるかもしれない。しかし人間の退化というのは今に始まったことではない。その証拠に、昔の人は自分で豆腐を作ったり、こんにやくを作ったり、ということができたが、最近の人々はこんにやくの原料さえ知らない始末である。

こういった事実を考えれば、技術革新によって人間の仕事が減るのはごく自然のことであり、それはテクノロジーを発展させた人類への褒美としての休息のようなものかもしれない。早くロボットと一緒に生活したいものである。



## テクノロジーへの期待

こんなものが発明されたら

高等部3年 本 亜由美

一日二十四時間の中で、最も私たちの生活に必要なものがある。それは「水」だ。朝起きてから床に就くまで、いたい私たちはどれくらいの水を使っているのだろう。以前どこかで、日本人は一日約二百五十リットルもの水を使用すると聞いたことがある。本当にそんな量を使っているのかと思うが、お風呂やトイレなど実際に必要以上の水を私たちは大量に使っているわけなのである。

日本はとても豊かな水に恵まれている国のひとつで、安全でおいしい水がいつでもどこでも簡単に入手できる。しかし、一歩外に踏み出せば全く異なる状況を目の当たりにする。海外旅行をする人なら誰でも経験があると思うが、まず水道水は飲まな

い方がよい国が圧倒的に多い。例えば、タイに行ったとき、水道水のみならずジュースに入っている氷にまで気をつけなければお腹を壊してしまうのだ。ほとんどの国ではミネラルウォーターを必要とする。そして、現在世界には約五人に一人の割合で、安全な水を利用することができないのである。私たちが何気なく使っている水、無くてはならない存在の水が、世界中の五人に一人は使えない状況を放っておいて良いわけがない。そこで、世界中の全ての人が、安全な水が必要最低限は使えるような状況を、今ある高度で優れたテクノロジーを用いて生み出せないか考えてみた。

まず第一に、地球のほとんどを占めている海水を利用できないだろうか。海水を飲み水に簡単に交換できる機会や施設を世界各地に設置する。そして水道管を取り付ける。使用した水は、リサイクルできるように浄水場も建設する。水源が乏しい地域でも使用可能になる予定だ。そして、新しいテクノロジーとたくさんの失業者やボランティアで、円滑にかつ早急に計画を進めれば、近い将来もっと多くの人々に水が行き渡る日が来るのではないか。

次に、雨水の利用だ。ダムに頼らずに各家庭で雨水を蓄え、各自で殺菌、除菌するのをもひとつの手だ。誰にでもできるような除菌システムが開発されれば便利だろう。しかし、降水量の多くない地域には有効でないのが欠点だ。

最後に、化学反応を用いて水を一度に大量生産することだ。何でも可能にしてしまうテクノロジーを使えば、水を作り出すことぐらいたやすいことであろう。しかし、それをどう運搬して水の行き届かない人々へ提供するのが問題になってくる。手段はいろいろあると思う。これは政府や国際機関がどこまで投資してくれるかによるだろう。資金を出すことをいとわなければ、空や陸や海上のどこからでも水を運ぶことができるのである。

このように、水を世界中の人々に提供する手段は山ほどある。しかしまだ一人一人が他の人のことを考えることもなく水を使用しているのだ。テクノロジーを使う前に、まず私たち一人一人の水に対する意識を高める必要があるように思える。そうすれば、節水を心掛ける人も増えるだろうし、水の大切さを実感しながら生活するようになるだろう。そこで初めて人間とテクノロジーの発達が実を結び、最大限の力を発揮できるのではないだろうか。最終的には、世界中どこでも、蛇口をひねれば安全な水が二十四時間使えるようになるのも十分可能だと考える。そして、水問題をテクノロジーと私たちの意識で解決することは、最大の社会的意義があることだと思う。

## うどんどうかい

一ねん うんの さつき

二にん三きやくで、一ばんだったのがうれしかったです。

ぱんくいきょうそうで、ぱんをたべたとき、はちがきてぱんにとまっ  
てしまいました。びっくりして、ぱ  
んをおとしてしまいました。

## うどんどうかい

一ねん おおはら さきこ

うどんどうかいで、ぱんくいきょう  
そうがおもしろかった。みんなげん  
きにはしっていたし、どれもおもし  
ろかった。

でも、けがをしたひとが三にんも  
いたから「どうしたんだらう」と、  
おもった。

## がんばった運動会

三年 めま田 なお子

わたしは、パン食いきょう走で負  
けてしまいました。けれどもパンは、  
とてもおいしかったです。そのパン  
は、チョコ味でした。うずまききょ  
う走では相手が一年生でした。だか  
ら、ぜつたい勝つと思いましたが、  
いっしょに走る人は、一年生でした。  
だから、そんなにスピードをあげて  
走ったら一年生が転んでしまうので、  
一年生に合わせて走りました。もし  
てぼうをとぶ時少し早かったので、  
ぼうにつまづいてしまいました。で  
も、青組みがビリじゃなくてよかつ  
たです。

おべんとうをあやねさんと食べま  
した。けれどもハチがとんできてジ  
ュースのかんの中に入って、じゃま  
をしました。でもおべんとうをおい  
しく味わってたべました。

本当に、楽しい運動会でした。

## 最初の運動会

四年 上原 大輝

ぼくにとっては、ここでの最初の  
運動会でした。運動会が始まった時  
に、ぼくは、勝てるかなあと、とて  
もどきどきしました。最初の種目は、  
短きより走でした。くやしいことに  
結果は三位でした。うずまきリレー  
では結果は四位でした。それでもう、  
いやになってしまいました。

前半が終わって、昼ごはんになり  
ました。そして、おべん当を食べ終  
わった後、力がわいてきました。

後半になって、小学生のリレーが  
始まるうとしたのですが、なぜか少  
しおくれてしまいました。ずっと待  
ってやっと始まりました。ぼくは始  
まった時ほつとしました。リレーの  
結果は二位でした。

運動会で勝ったのは赤組でした。  
運動会があつたら、また勝ちたいと  
思います。

## 楽しかった運動会

五年 堀部 和加奈

「よいい、ドン。」私が一番好きなパン食い競走が始まりました。私は、思い切って走りました。私は、パンにかぶりつきすばやく取りました。

私は、去年パン食い競走で二位だったので今年は、一位になりたいと思っていました。でも今年も二位でした。でも、だいたい一位の人と同じくらいの速さだったので少しうれしかったです。

私が二番目に好きなのは、リレーです。私は黄色組でした。黄色組は、最初の方は、一位だったけれど最後の方に青組にぬかれてしまいました。なので二位になってしまいました。私はリレーで十番に走りました。私の弟も十番に走っていたのでびっくりしました。

去年は、金だったけれど今年は銀だったので少しショックでした。で

も楽しかったのでよかったです。来年がとても楽しみです。

## 初めての運動会

六年 戸田 大貴

ぼくがここハンガリーに来て、あつという間に二週間が経った。そして、待ちに待った大イベント（運動会）が来たのだ。

ぼくが最も楽しみにしていた種目は、（最もぼくが望むのはチームの優勝だが）リレーだった。アンカーを任せられた。アンカーは最後のランナーで一番重要なところだ。そして、ぼくの順番が三番で回ってきた。ぼくは、バトンを受け取ってスタートした。一つでも順位を上げようと、そしてぼくにとってはハンガリー最初の運動会であるということもあり、精一杯走った。しかし、結果は三位のままだった。

そして、結果発表。（ぼくは赤組）加茂先生が出した得点板を見ると、白百六十五点、赤八十五点となっていた。

結果はボロ負けだが、ぼくにとつてはハンガリーにいる三年間のうちの第一歩となった。それは、上級生などと話す機会がとても多くなり、これからも仲良くやっていけそうなのが嬉しかったからだ。これからも上級生などとたくさんふれ合いたい。そして、これからの運動会も楽しんでやりたい。



不思議……？

中二 村松 佳奈

補習校の運動会は、なんだか不思議だな、と私はよく思う。今年で運動会に出るのも、三回目だけれど、いつも思うことだ。私は、日本にいる頃から、どつちかと言えば運動会が好きではなかった。運動が苦手な私にとって、「運動会」というものは、恥をかくためにあるようなものだったからだ。ヒーローになれる、足の速い子達が、かなりうらやましかった、という記憶もある。

けれど、補習校の運動会は、なぜかいつも、「運動会、やだよね」とか友達と言いながらも、けっこう楽しんでる。もちろん前にも書いた通り、私は運動が苦手だ。案の定、徒競走では、ビリだった。日本だったら、ここでもかなり落ち込むところだけれど、「ここだったら、「ビリになっちゃったよ」と、サラッと流せるし、

あんまり気にしない。勝手な思い込みかもしれないけれど、この運動会では、みんな勝ち負けにこだわってないみたいだからだ。もちろん勝つたらうれしいけれど、負けても、残念だったねえ、で終わり。競い合っている、というよりも競技を楽しんでいる、というような感じがした。変にプレッシャーを感じることもないし、昼休みはのんびりできる。そんな運動会がけっこう気に入った。日本の運動会とはまた違った、不思議な雰囲気運動会。きつといい思い出になるだろうな、と思った。

## 二回目の運動会

中二 高橋 真帆

私は自分の耳を疑った。運動会？ ついこの間、ハンガリーに来る前に、アメリカの補習校で運動会を終えてきたばかりだったからだ。それに、

競技がとにかく多い。さらに、集合時間も早い。私は別に運動会が嫌いなのではない。ただ、一年に二回もあんなに運動したくなかったのだ。私はあまり期待しなかった。そんなことを思っていたら、練習がもう始まっていた。

練習を始めた時、ラジオ体操を前でやれと言われ、やる気をすべてなくしていた。しかし、同じチームの人達と一緒に競技を練習している間に、だんだん自分が楽しくしていることに気づいた。特にむかで競走を練習している時がとて印象に残った。

実際に、本番ではとても参加してよかったと思えることができた。私のチームは負けてまったのだが、あんまり、いや、全然悔しくはなかった。今回運動会に二回も参加したことに、前よりもっとポジティブに考えることができた。

## 書籍紹介

『二次元より平らな世界：ヴィツキ  
ー・ライン嬢の幾何学世界遍歴』

イアン・スチュアート著

早川書房、二一 三年

書評『エレガントな宇宙』（『ドナ  
ウ通信』第53号、二一 二年一月）  
で紹介したように、今、物理学の世  
界では、宇宙を構成する力を統一的  
に説明できる大理論（統合理論）の  
構築が、一大トピックになっている。  
人類はまだ基本的なところで、宇宙  
の構造を捉え切れていない。たとえ  
ば、重力が何によって構成されてい  
るのか、これを説明できないままに  
いる。光が光子からなる電磁の波で  
あるように、重力も何か「重力粒子」  
のようなものから構成されているの  
だろうか。しかし、これまでそのよ

うなものは発見されていない。

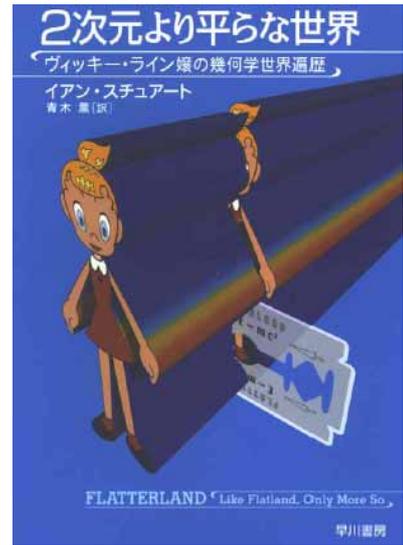
宇宙の基本的な力を統一的に説明  
する理論の構築に光を当てつつある  
のが、「ひも理論」である。ただし、  
この「ひも理論」は、宇宙が十次元  
あるいは十一次元空間であることを  
前提とする。その前提と、我々の日  
常世界での次元（三次元と時間を加  
えた四次元）との差異はどう説明さ  
れるのだろうか。

いったい本当に我々の世界は日常  
的な感覚で捉えられる三次元で構成  
されているのだろうか、それとも、  
我々の見えない、知らない次元があ  
るのだろうか。見えない次元がある  
蓋然性は高い。そもそも人類が現在  
の三次元という観念を獲得してから、  
それほど時間が経っていないのだ。  
蟻の世界を考えてみよう。蟻は平  
面を動き回っているが、平面をジャ  
ンプする空間を知らないし、空間を  
動くことはできない。もし人間がそ  
のような平面世界の中に生きていた

とすれば、世界の構造にかんする知  
識はきわめて歪んだものになるに違  
いない。この比喩は厳密ではないが、  
物理学が直面している問題を日常用  
語で表現すれば、このようなものに  
なる。ここに紹介する書籍は、現代  
数学や物理学の成果にもとづいて、  
宇宙を構成する次元や構造について、  
我々の常識との差異に気づかせる物  
語である。

### 古典: *Faerland*

今から百二一年ほど前、イギリス  
の教育者エドウィン・アボットが、  
*Faerland*（邦訳『多次元・平面国』  
東京図書、『二次元の世界』ブルーバ  
ックス315。ただし、双方とも現在、  
絶版中）という小冊子を著した。一  
般読者向けに、数学の次元を考えさ  
せる物語だ。平面の世界には、点、  
線分、三角形、多角形、正方形など  
の図形がある。それぞれを生き物と  
して扱い、一つの社会を構成する平



面の国の世界を描いた。当時のヴィクトリア朝の階級社会を皮肉って、線分が一番社会的地位が低いものとし、この役割を女性に与えた。多角形の辺の数が多くなればなるほど社会的地位が上がり、これが貴族階級を構成するという社会階級システムで平面国をなぞらえた。平面を構成する図形の性質を説きつつ、社会的風刺を込めながら、幾何学のエッセンスを教えようとした試みである。

このアボットの作品は、長らく、数学教育のユニークな古典として知られてきた。

### Flatlandの現代版

アボットの著作から百年以上経て、すでに数学も物理学の世界も様変わりした。この百年以上の間に、現代の数学や物理学の基礎が完全にとつて代わられた。その現代的な成果を解説しながら、次元や構造の問題を考えてみようというのが本書である。いわばアボット作品の現代版である。

本書の物語は、主人公の平面国の「線分」であるウィットニー嬢の様々な空間世界の遍歴物語。スペースホッパーに乗って、いろいろな次元や空間を旅する。フラクタルの世界、射影幾何学の世界、群の世界、非ユークリッド幾何学の世界、量子空間等々の世界を飛び回りながら、平面国では経験できない世界を見聞する。

スペースホッパー君はウィットニー嬢を未体験の空間に案内するのだが、いろいろな空間が体験できる VUE (Virtual Unreality Engine) を持つていて、必要に応じてそれぞれの空間

に入り込む疑似体験に導いてくれる。疑似体験を通して、それぞれの空間の特徴や意味を理解していく訳だ。

物語は、平面国の線分ウィットニー嬢が、家の箱の中からA・スクエア著『フラットランド―多次元の物語』(アボットの著作)を見つけたことから始まる。そこには平面国では想像のつかない三番目の空間について記されてあった。平面国では三次元の話をするとはタブーであった。

ウィットニーの「ひいひいお祖父さん」が書いたこの書物は禁書で、お祖父さんは監獄送りになった。両親はこの書物を燃やしてしまうが、ウィットニーはこの本の内容のことが頭から離れない。

「日記さん、今日はそれはそれはいへんな一日だったわ！右を左への大騒ぎとはこのことね。まだシヨックで気持ちが動転しているぐらいよ。なんと、私には恥ずべき祖先がいたってわけ！最高でしょう？ひい

ひいお祖父さんのアルバートは宗教上の異端者で、自らの信念のために豚箱に入ったというの。その信念というのがすごい！ああ、何から話していいかわからないくらいだわ。要するに・・・」。

こう悩んでいるというところにスペースホッパーが現れる。<口を組み込んで、一緒にいろいろなスペースを案内するという。

「VUEのドライバーをインストールし、ヴィッキーに合わせてカスタマイズする作業に夢中になっていた二人は、(母親の)ジユビリーの近づく音に気づかなかった。分厚いドア越しにはあるが、リーははつきり二人の会話を聞いた。中で何が行われているにせよ、『それ、あなたのもっているやつ、もういっぺんインサートしてみて』などというセリフは、あまりに淫らではしななかった。さらに相手の男が、娘をせき立てるように、『早くしなよ、もう行っちゃ

うよ』など言うのを聞いて我慢がならなかった。怒り狂ったジユビリーはさっとドアを開けて中に押し入ると、無限に細い針の先端を脅すように揺らした。針の前方には、突然のことで唾然としている娘と・・・派手なオレンジ色の服を着た、はつとするほどハンサムな男がいた」。

こうして、ヴィッキーとスペースホッパーは、平面国から姿を消して、スペースへの旅(スペース・ホッピング)を始めることになる。

と、このような感じの文章で、物語が流れていく。著者スチュアートはイギリスの数学者。この物語は非常に良く構想されている。表現が機知に富んでいて、とても数学者が書いたとは信じられないほどユーモアと現代的センスに満ちている。翻訳もそれに劣らず優れている。日本の学者は教科書や一般読者向けの読み物を書くことを嫌うが、欧米の一流の学者は優れた教科書を書く人が多

い。ここらが、キャッチアップに懸命になってきた日本と、学問を発祥させた地との歴史と余裕の違いだろうか。

物理学の知識が豊富になったとはいえ、人類は宇宙のほんの僅かのことしか知っていない。だから、新しい次元が発見されたとしても、何の不思議もないだろう。二次元国＝平面国の住人のように、三次元国＝地球国の住人とどまっている限り、地球国から見えない世界や宇宙を知らないままに過ごしてしまうだろう。これから数学や科学を学ぼうとする高校生に、是非、読んでもらいたい書籍である。頭の固くなった大人には難しいかもしれないが、それでも挑戦してみる価値はある。(盛田)



## 【日本人会便り】

「アツイ熱い」と毎日嘆いていたのが嘘のよう。手袋、マフラーを引っぱり出す季節となつてしまいました。

九月一四日の『大運動会』は三年ぶりの好天に恵まれ、青空の下のびのびと走り回る事ができました。大人も子供も大張り切り。特にハンガリーの方々が大のみの競技に日・八に関わらず近くにいる子供を抱いて参加、子供達も楽しめるよう配慮下さった姿が印象的でした。それにしてもパン食い競争の後のドーナツは、なぜあんなに美味しいのでしょうか。ちよつと大人に近づき照れながら走っていたお兄さん方も、食べる時は満足してくれたかな？ただ、今大会では、怪我をされた方が数名出てしまいました。一日も早く全快されますよう、お祈り申し上げます。

また、本年度最後の運動部行事『第二回ソフトボール&ソフトバレーボ

ール大会』は残念ながら雨天中止となつてしまいました。前日の午後お日様が出てきた時には「祈りが通じた？」と期待したのですが、明け方からの雨でグラウンドはプレーのできる状態になし。あきらめざるを得ませんでした。なお、案内状に弁当のキャンセルなしの記載があつたとは言え、当日の受渡しに混乱があり、来年は改善します。

末筆となりましたが、各行事に日本大使館より飲み物のご協力を頂きました事、ここにご報告申し上げます。本年度も皆様のご参加をありがとうございます。特に運動部分科の皆様には、事前準備より多々お世話様になりました事、心より御礼申し上げます。

一二月七日の総会（インターコンチネンタルホテル）にて会員の皆様とお目にかかれまます様、事務局一同願っております（詳細は別途お知らせします）。

## 番組「ミツコ」の状況

前号でお知らせしたようにTV2からの不真面目な回答にたいして、再度、会長のピントル氏宛てに、ピントル氏自身の回答を求める旨の手紙を、六月二五日付けで発出ししました。この要請にたいして、TV2は七月三日付けで、再度ポイチ番組部長が返答し、ORTIが別の請求者にたいして出した審判文書のコピーを同封し、「これで問題は解決している」とする極めて不誠実な回答を寄越しました。

このように、TV2は大使館の抗議にはすぐ対応するが、民間の抗議には鼻であしらう対応しかしないことが分かりました。旧体制の官僚のような対応です。また、ORTIからは審査受付の連絡が来たのみで、その後何の連絡もありません。

なお、大使館には「今秋の番組放映を見合わせる」という連絡が入つたそうです。